



博多港・福岡空港の概況

令和7年9月
福岡市港湾空港局

= 目 次 =

第1章 博多港の物流

- 1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） … P.1
 - （1）国際海上コンテナ取扱個数の推移
 - （2）令和6年の取扱個数増減の主な要因
 - （3）貨物の内訳
 - 【参考：国内主要港との比較（令和5年）】
- 2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地 … P.4
- 3. 海上出入貨物（トンベース） … P.5
 - （1）海上出入貨物量の推移
 - （2）令和6年の貨物量増減の主な要因
 - （3）外国貿易
 - （4）内国貿易

第2章 博多港の人流

- 1. 船舶乗降人員 … P.9
 - （1）船舶乗降人員の推移
- 2. うち外国航路船舶乗降人員 … P.10
 - （1）外国航路船舶乗降人員の推移
- 3. クルーズ船の寄港回数 … P.10
 - （1）クルーズ船の寄港回数の推移

第3章 博多港の入港船舶

- 1. 入港隻数及び総トン数 … P.11
 - （1）入港隻数及び総トン数の推移

第4章 福岡空港の概況

- 1. 乗降客数 … P.13
 - （1）乗降客数の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】
- 2. 貨物取扱量 … P.14
 - （1）貨物取扱量の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】
- 3. 発着回数 … P.15
 - （1）発着回数の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】
- 4. 路線状況 … P.16

※いずれの表・グラフとも端数処理のため合計が合わない場合がある

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース）

【令和6年港湾統計確定値】

取扱個数：約 87 万 7 千 TEU

外貿ダイレクト：約 80 万 7 千 TEU、内貿フィーダー：約 7 万 TEU

（1）国際海上コンテナ取扱個数の推移

令和6年の国際海上コンテナ取扱個数は、輸移出入ともに減少している。

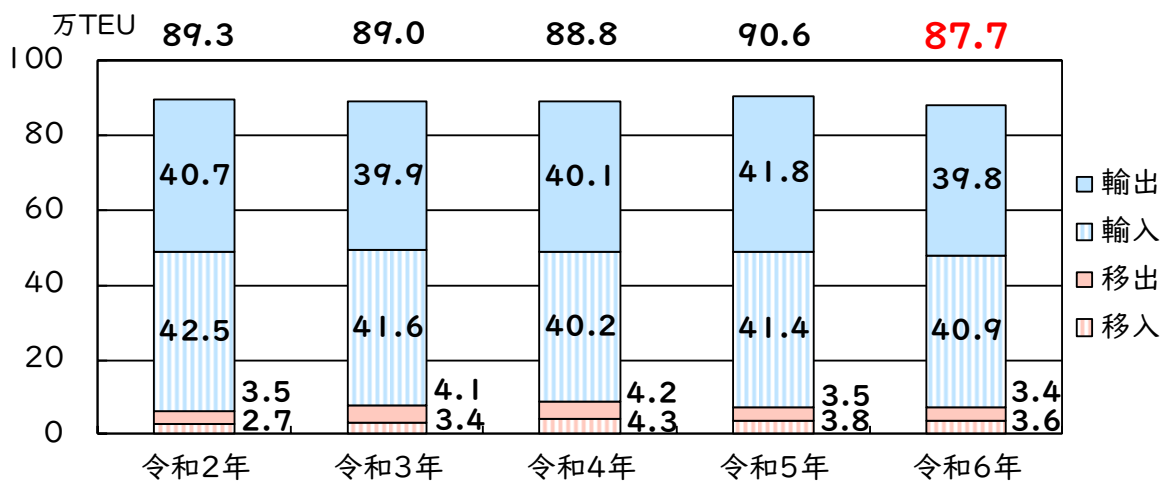
【表 1-1】

(単位:TEU)

区 分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	増減(R6/R5)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	893,301	890,026	887,734	905,678	877,382	▲ 28,296	96.9%
輸移出	441,499	439,944	442,862	453,563	432,682	▲ 20,881	95.4%
輸移入	451,802	450,082	444,872	452,115	444,700	▲ 7,415	98.4%
うち外貿ダイレクト	832,133	814,998	802,378	832,091	807,205	▲ 24,886	97.0%
輸出	406,913	398,554	400,796	418,187	398,425	▲ 19,762	95.3%
輸入	425,220	416,444	401,582	413,904	408,780	▲ 5,124	98.8%
うち内貿フィーダー	61,168	75,028	85,356	73,587	70,177	▲ 3,410	95.4%
移出	34,586	41,390	42,066	35,376	34,257	▲ 1,119	96.8%
移入	26,582	33,638	43,290	38,211	35,920	▲ 2,291	94.0%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20フィートコンテナ換算個数

【グラフ 1-1】



（2）令和6年の取扱個数増減の主な要因

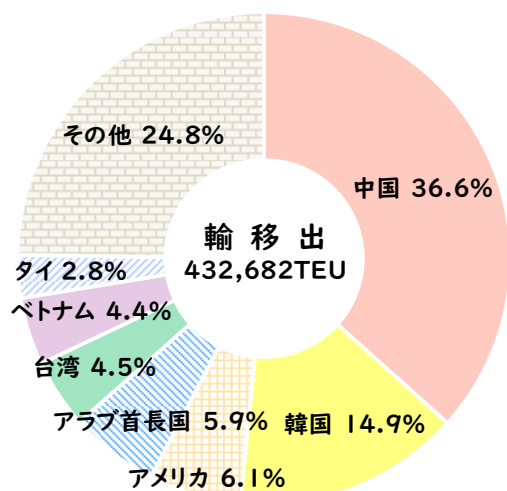
輸移出…ゴム製品（前年比▲6千 TEU）や取合せ品（同▲3千 TEU）の減少等
 輸移入…木製品（同▲2千 TEU）やゴム製品（同▲2千 TEU）の減少等

(3) 貨物の内訳

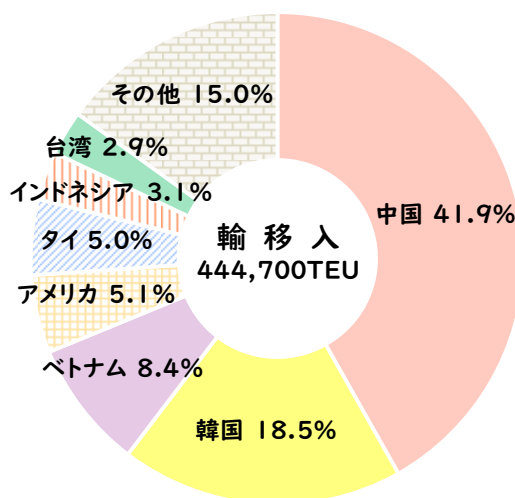
① 相手国別

輸移出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 1-2】



【グラフ 1-3】



② 主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「完成自動車（中古車）」や「ゴム製品（タイヤ等）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸移入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 1-2】

(単位: TEU)

輸 移 出					
順位	品 種	取扱個数	主な輸出相手国		
1	完成自動車	※ 46,767	アラブ首長国	中国	タイ
2	ゴム製品	39,323	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア
3	再利用資材	19,636	ベトナム	台湾	韓国
4	自動車部品	19,329	アラブ首長国	アメリカ	韓国
5	産業機械	16,106	アメリカ	中国	ベトナム
6	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	15,319	中国	韓国	台湾
7	飲料	10,916	韓国	台湾	中国
8	取合せ品	9,066	アメリカ	中国	韓国
9	二輪自動車	9,017	イタリア	オランダ	フランス
10	化学薬品	7,407	中国	韓国	アメリカ

【表 1-3】

(単位: TEU)

輸 移 入					
順位	品 種	取扱個数	主な輸入相手国		
1	家具装備品	48,886	中国	ベトナム	タイ
2	衣服・身廻品・はきもの	32,291	中国	ベトナム	台湾
3	動植物性製造飼料	29,736	アメリカ	韓国	オーストラリア
4	電気機械	26,748	中国	タイ	韓国
5	製造食品	25,912	中国	タイ	韓国
6	自動車部品	25,562	ベトナム	中国	韓国
7	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	16,869	中国	韓国	台湾
8	その他日用品	15,685	中国	韓国	インドネシア
9	金属製品	15,434	中国	ベトナム	韓国
10	水産品	13,628	韓国	中国	インドネシア

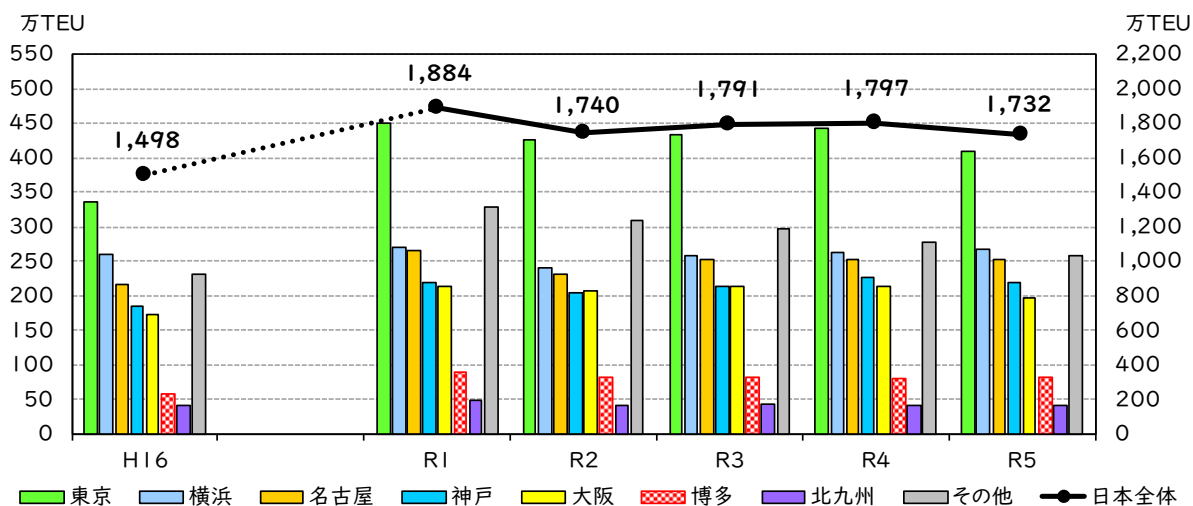
※ 普通・小型乗用車約 94,000 台分に相当

【参考：国内主要港との比較（令和5年）】 国土交通省「港湾統計（年報）」より

① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ 1-4】



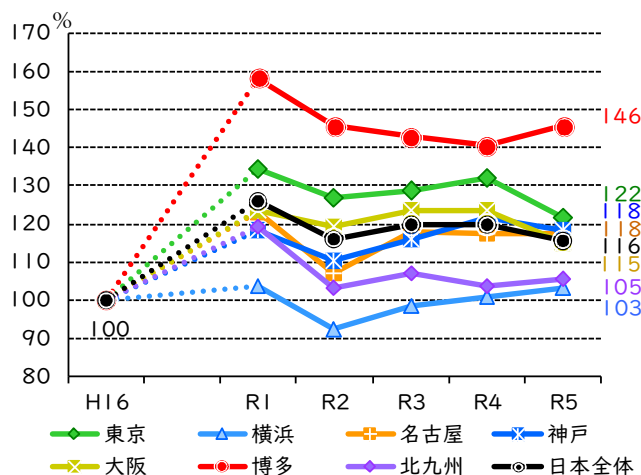
令和5年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、神戸、大阪、博多、北九州となっている。

年	R1	R2	R3	R4	R5
博多港のシェア	4.8%	4.8%	4.5%	4.5%	4.8%

② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

博多港の取扱いは、日本全体や国内主要港よりも高い増加率で推移している。

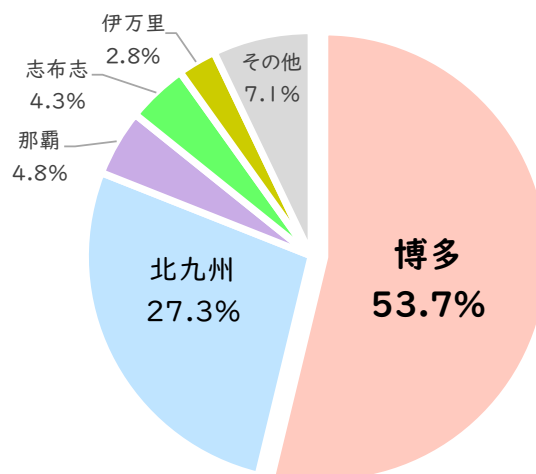
【グラフ 1-5】



③ 九州域内の取扱シェア

九州域内で取り扱われている外貿コンテナ貨物の約5割が、博多港を利用している。

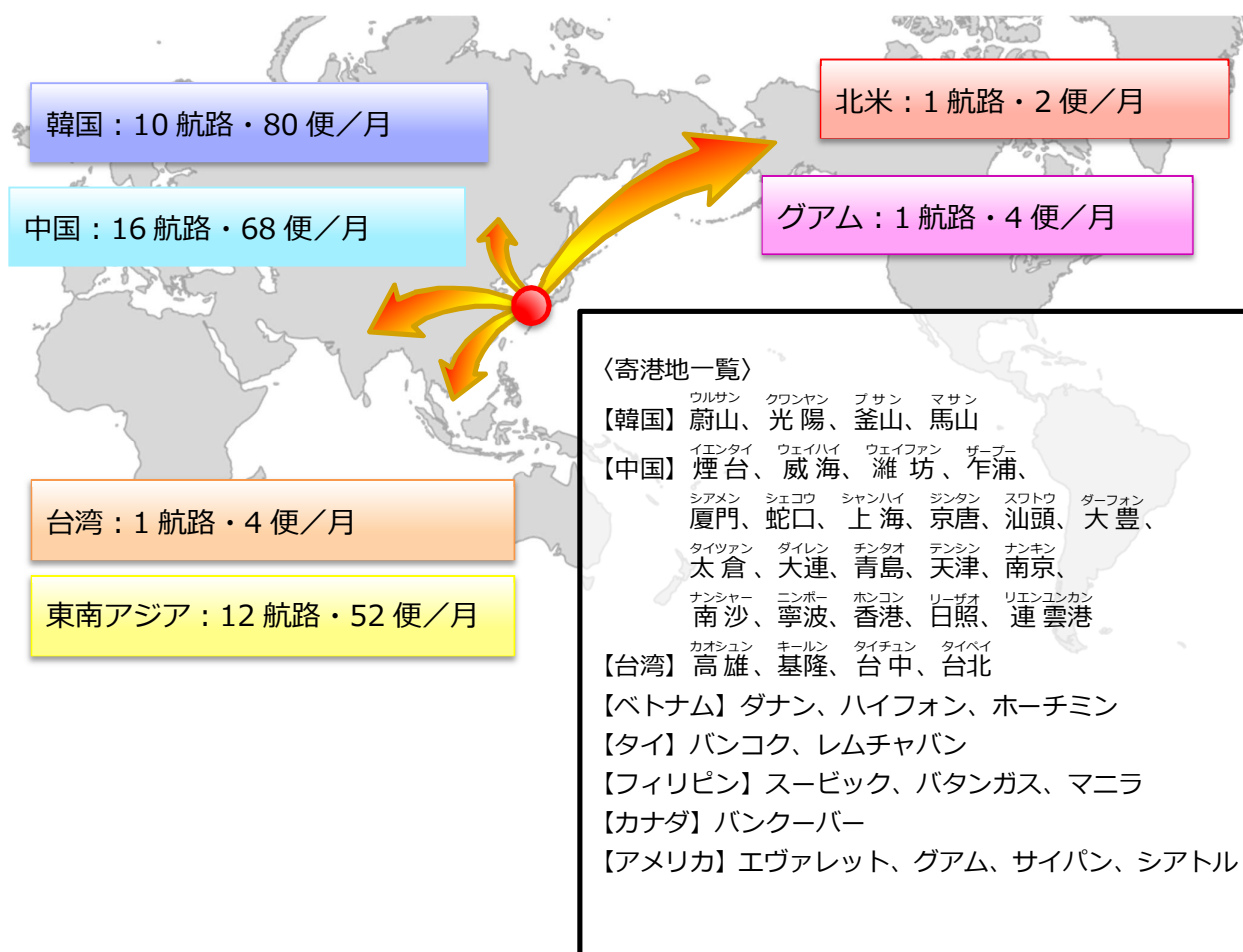
【グラフ 1-6】



2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

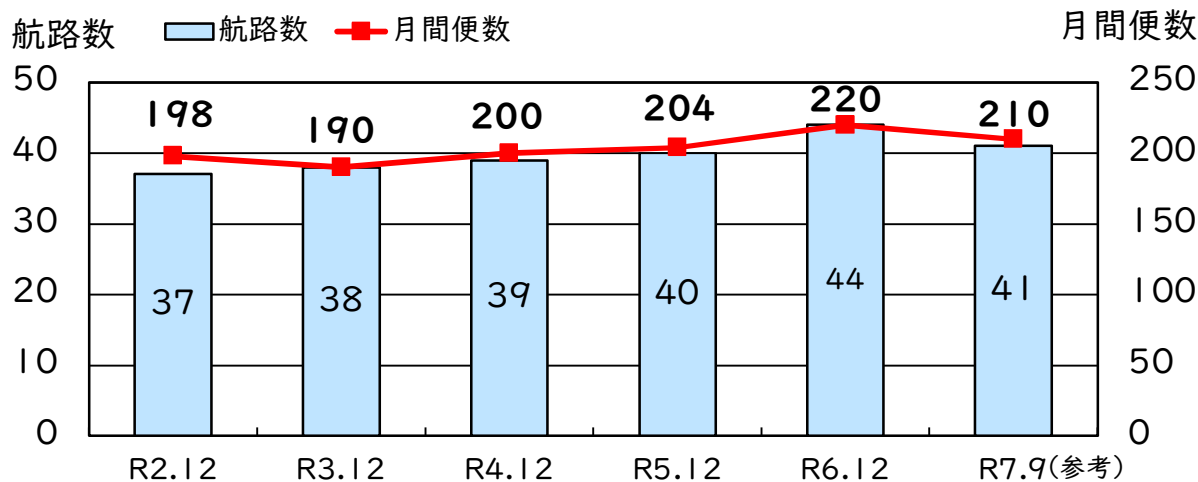
(令和7年9月1日現在)

41 航路・月間 210 便 (8 カ国・地域、41 港とのコンテナ物流網を形成)



■ 国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和6年港湾統計確定値】

貨物量：約 3,214 万トン

外国貿易：約 1,818 万トン、内国貿易：約 1,396 万トン

（1）海上出入貨物量の推移

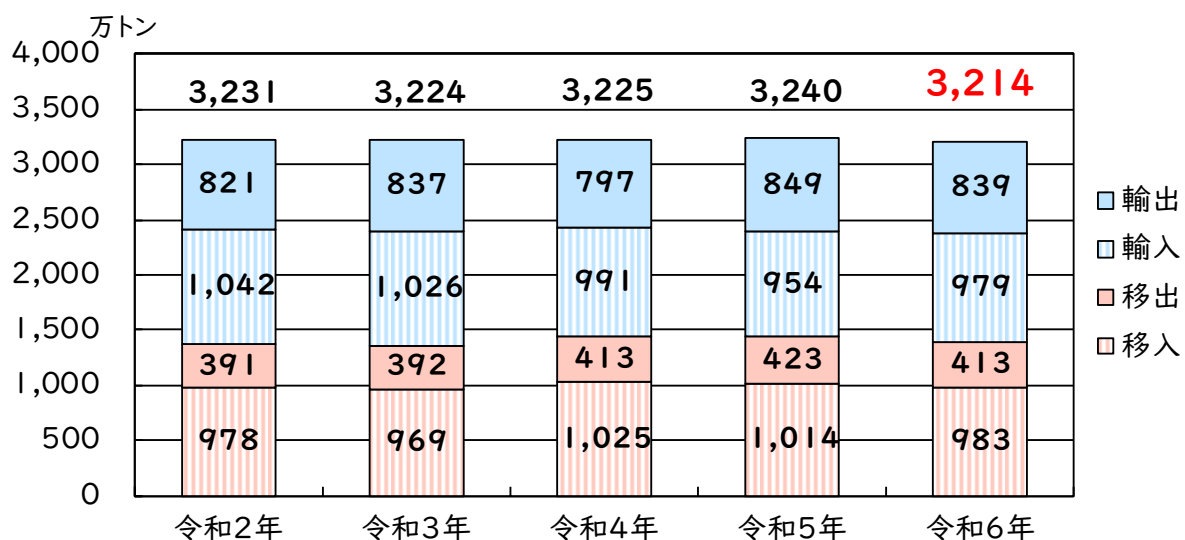
近年は 3,000 万トン台前半で推移しているが、令和6年の海上出入貨物量は、輸移出入ともに前年より減少している。

【表 3-1】

(単位:トン)

区 分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	増減(R6/R5)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	32,313,714	32,242,372	32,253,371	32,398,177	32,137,053	▲ 261,124	99.2%
輸移出	12,119,745	12,291,901	12,096,797	12,718,039	12,526,323	▲ 191,716	98.5%
輸移入	20,193,969	19,950,471	20,156,574	19,680,138	19,610,730	▲ 69,408	99.6%
うち外国貿易	18,624,587	18,625,360	17,880,503	18,031,190	18,180,459	149,269	100.8%
輸出	8,205,787	8,368,395	7,970,800	8,489,366	8,394,844	▲ 94,522	98.9%
輸入	10,418,800	10,256,965	9,909,703	9,541,824	9,785,615	243,791	102.6%
うち内国貿易	13,689,127	13,617,012	14,372,868	14,366,987	13,956,594	▲ 410,393	97.1%
移出	3,913,958	3,923,506	4,125,997	4,228,673	4,131,479	▲ 97,194	97.7%
移入	9,775,169	9,693,506	10,246,871	10,138,314	9,825,115	▲ 313,199	96.9%

【グラフ 3-1】



（2）令和6年の貨物量増減の主な要因

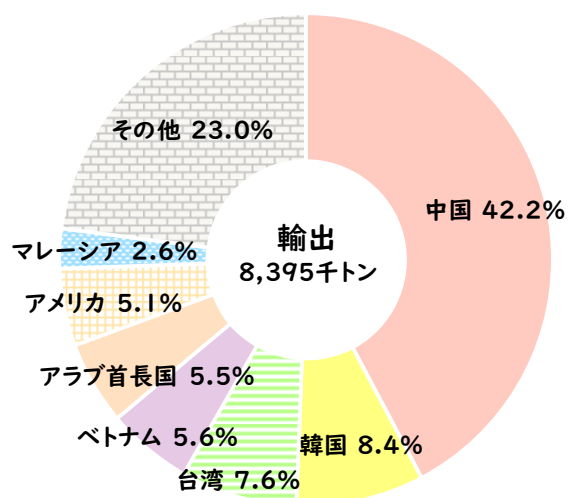
輸移出…ゴム製品（前年比▲18.6万トン）や取合せ品（同▲17.3万トン）の減少等
 輸移入…麦（同▲8.3万トン）や揮発油（同▲8.2万トン）の減少等

(3) 外国貿易 【18,180 千トン】

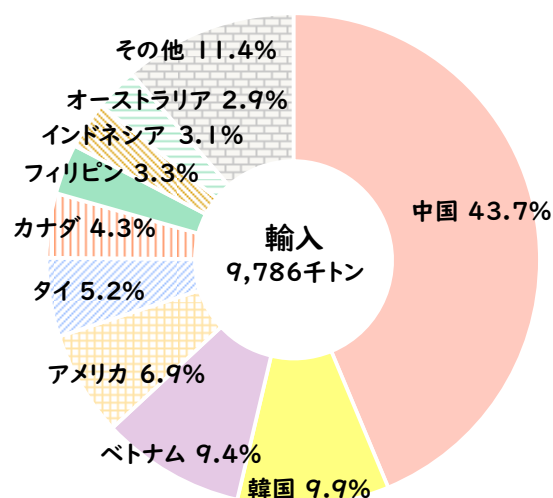
① 相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約 6 割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



② 主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品（タイヤ等）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位: 千トン)

輸 出					
順位	品 種	取扱量	主な輸出相手国		
1	完成自動車	※ 4,394	中国	アラブ首長国	韓国
2	ゴム製品	803	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア
3	産業機械	399	台湾	ベトナム	中国
4	再利用資材	396	ベトナム	台湾	韓国
5	自動車部品	310	アラブ首長国	マレーシア	アメリカ
6	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	266	中国	台湾	韓国
7	飲料	239	韓国	台湾	中国
8	金属くず	204	ベトナム	韓国	タイ
9	二輪自動車	196	イタリア	フランス	スペイン
10	化学薬品	147	中国	韓国	台湾

【表 3-3】

(単位: 千トン)

輸 入				
順位	品 種	取扱量	主な輸入相手国	
1	家具装備品	1,341	中国	ベトナム
2	衣服・身廻品・はきもの	745	中国	ベトナム
3	電気機械	608	中国	タイ
4	動植物性製造飼肥料	551	韓国	アメリカ
5	野菜・果物	543	フィリピン	中国
6	自動車部品	527	ベトナム	中国
7	麦	494	カナダ	アメリカ
8	製造食品	487	中国	タイ
9	その他日用品	401	中国	インドネシア
10	とうもろこし	323	アメリカ	ブラジル

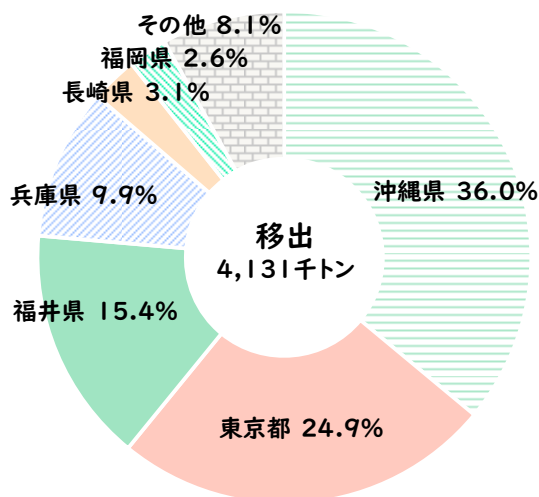
※ 普通・小型乗用車約 439,000 台分に相当

(4) 内国貿易 【13,957千トン】

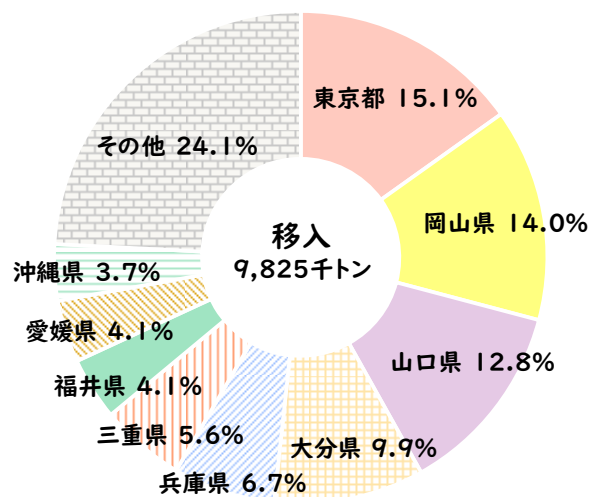
① 相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する沖縄県や東京都との取引が多く、また、移入においては、定期航路を有する東京都のほか、岡山県、山口県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



② 主要取扱品種

移出では、「取合せ品（小口混載貨物等）」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「その他の石油（軽油、航空燃料油など）」や「揮発油（ガソリンなど）」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-4】

(単位:千トン)

移 出					
順位	品種	取扱量	主な移出相手都道府県		
1	その他輸送機械	744	福井県	東京都	兵庫県
2	取合せ品	700	沖縄県	東京都	兵庫県
3	完成自動車	※1 571	東京都	沖縄県	福井県
4	製造食品	227	沖縄県	兵庫県	長崎県
5	飲料	189	沖縄県	長崎県	兵庫県
6	その他日用品	173	沖縄県	長崎県	兵庫県
7	鋼材	162	沖縄県	福井県	兵庫県
8	とうもろこし	142	福岡県	鹿児島県	広島県
9	水	133	海上採取	長崎県	東京都
10	麦	127	香川県	千葉県	神奈川県

※1 普通・小型乗用車約 57,000 台分に相当

【表 3-5】

(単位:千トン)

移 入				
順位	品種	取扱量	主な移入相手都道府県	
1	その他の石油	1,833	岡山県	大分県
2	砂利・砂	1,631	海上採取	長崎県
3	揮発油	1,530	岡山県	山口県
4	完成自動車	※1 1,326	東京都	三重県
5	セメント	475	山口県	福岡県
6	取合せ品	365	東京都	沖縄県
7	鋼材	342	岡山県	大阪府
8	動植物性製造飼肥料	280	兵庫県	福井県
9	米	184	東京都	福井県
10	製造食品	182	福井県	兵庫県

※2 普通・小型乗用車約 133,000 台分に相当

博多港のコンテナ物流について

<令和6年の国際海上コンテナ貨物動向>

【令和6年港湾統計確定値】

◆国際海上コンテナ取扱個数

(単位：TEU)

区分	令和5年	令和6年	増減数	増減率
博多港全体	905,678	877,382	▲28,296	▲3.1%
実入り	649,184	637,962	▲11,222	▲1.7%
空	256,494	239,420	▲17,074	▲6.7%
輸移出	453,563	432,682	▲20,881	▲4.6%
実入り	257,727	244,048	▲13,679	▲5.3%
空	195,836	188,634	▲7,202	▲3.7%
輸移入	452,115	444,700	▲7,415	▲1.6%
実入り	391,457	393,914	+2,457	+0.6%
空	60,658	50,786	▲9,872	▲16.3%

◆博多港の集荷対策について

■目指すべき姿

活力と存在感に満ちた「日本の対アジア拠点港」

※平成28年3月改訂 博多港港湾計画



成長著しいアジアに近い**地理的優位性**



陸・海・空の輸送モードが集積する**交通便利性**

■取組みの方向性

博多港の強みを活かし、博多港における国際海上コンテナ取扱量のシェアが高い「東アジア」の貨物や、近年、増加が顕著な「東南アジア」の貨物を中心に集荷活動に取り組む。アジアの貨物については、九州内の港で輸出入されている貨物だけでなく、更なる集荷のため、九州からの流出貨物や、九州域外の貨物についても対象を広げ、積極的に集荷活動に取り組む。

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員

【令和6年港湾統計確定値】

乗降人員：約 211 万 4 千人

外国航路：約 120 万 1 千人、内国航路：約 91 万 3 千人

(1) 船舶乗降人員の推移

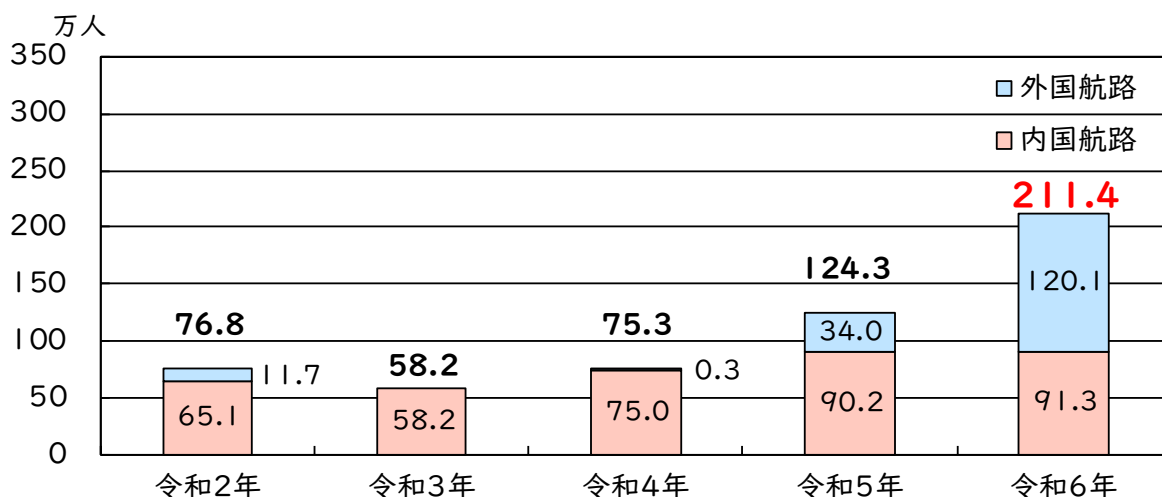
令和6年の乗降人員数は外国航路・内国航路ともに増加している。

【表 1】

(単位：人)

区 分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	増減(R6/R5)	
					人数	人数	前年比
博多港全体	767,927	581,889	753,004	1,242,516	2,114,167	871,651	170.1%
うち外国航路	116,901	—	3,465	340,171	1,200,887	860,716	353.0%
うち内国航路	651,026	581,889	749,539	902,345	913,280	10,935	101.2%

【グラフ 1】



2. うち外国航路船舶乗降人員

【令和6年港湾統計確定値】

乗降人員：約 120 万 1 千人

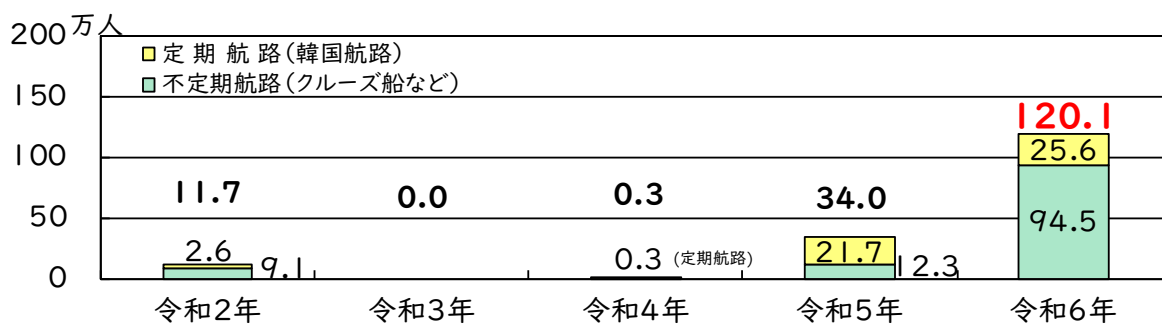
定期航路（韓国航路）：約 25 万 6 千人、不定期航路（クルーズ船など）：約 94 万 5 千人

（1）外国航路船舶乗降人員の推移

定期航路については、令和4年11月の再開以降、順調に推移していたものの、一部運休の影響が見られる。

不定期航路（クルーズ船）については、国際クルーズの回復により増加している。

【グラフ 2】



3. クルーズ船の寄港回数

【令和6年港湾統計確定値】

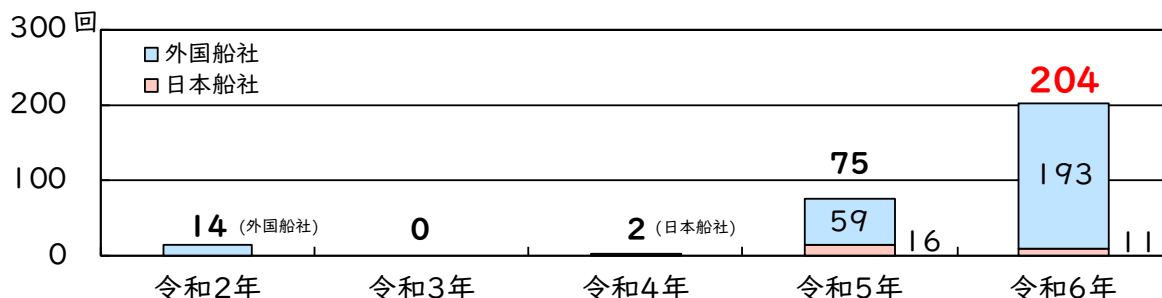
寄港回数：204回

外国船社：193回、日本船社：11回

（1）クルーズ船の寄港回数の推移

国際クルーズの回復により増加している。

【グラフ 3】



第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数

【令和6年港湾統計確定値】

入港隻数：24,482隻

総トン数：約7,351万総トン

外国航路：3,048隻・約5,381万総トン、内国航路：21,434隻・約1,969万総トン

(1) 入港隻数及び総トン数の推移

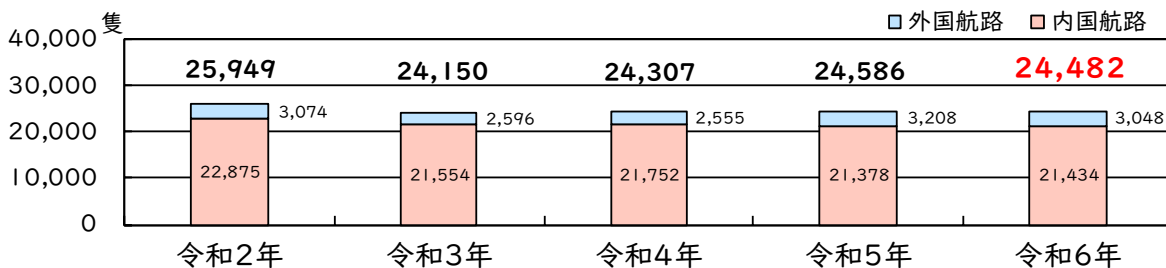
入港隻数は近年2万5千隻前後で推移しているが、総トン数は大型クルーズ船の寄港増加により増加している。

【表1】

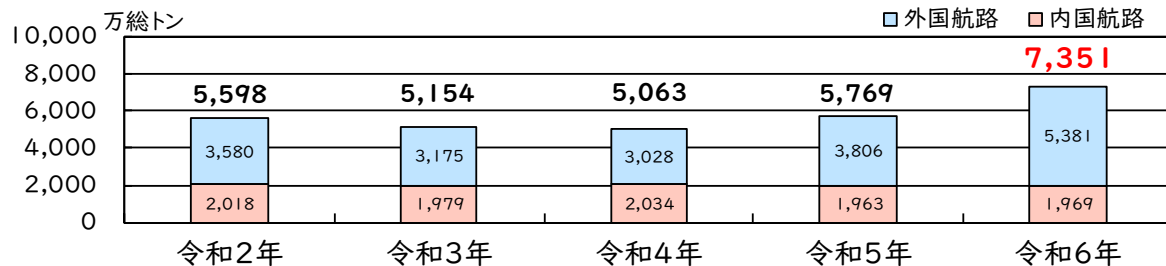
(単位：隻、総トン)

区 分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	増減(R6/R5)	
					数量	数量	前年比
入港隻数	25,949	24,150	24,307	24,586	24,482	▲104	99.6%
うち外国航路	3,074	2,596	2,555	3,208	3,048	▲160	95.0%
うち内国航路	22,875	21,554	21,752	21,378	21,434	56	100.3%
総トン数	55,983,314	51,540,787	50,627,385	57,693,783	73,505,454	15,811,671	127.4%
うち外国航路	35,802,548	31,750,203	30,284,868	38,059,362	53,812,572	15,753,210	141.4%
うち内国航路	20,180,766	19,790,584	20,342,517	19,634,421	19,692,882	58,461	100.3%

【グラフ 1-1 入港隻数】



【グラフ 1-2 総トン数】



市営渡船の経営状況

1. 航路概要図



主な使用船舶



2. 航路別収支

（単位：千円）

区分		令和6年度 決算（見込み）				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	86,486	227,830	47,927	19,319	381,562
	国・県補助金	0	0	135,025	89,737	224,762
	計	86,486	227,830	182,952	109,056	606,324
歳出	運航経費	479,400	459,487	280,513	165,106	1,384,506
運航収支		▲ 392,915	▲ 231,657	▲ 97,562	▲ 56,050	▲ 778,183
歳入	市債収入	6,000	0	0	0	6,000
歳出	市債関連支出	6,468	0	0	0	6,468
	公債費（市債償還分）	40,136	44,693	40,911	2,520	128,260
	計	46,604	44,693	40,911	2,520	134,728
繰入金		433,518	276,350	138,473	58,570	906,911

3. 渡船の利用状況の推移

（単位：人）

区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
乗 客 人 員	志賀島航路	186,931	107,738	118,422	149,569	176,988	184,380
	能古航路	838,255	586,078	601,453	657,822	699,162	670,697
	玄界島航路	71,083	53,227	52,112	60,396	64,265	60,615
	小呂島航路	9,376	7,691	7,277	8,159	8,573	8,057
	合計	1,105,645	754,734	779,264	875,946	948,988	923,749
	対前年度比	100.1%	68.3%	103.3%	112.4%	108.3%	97.3%

第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数

【令和6年度確定値】

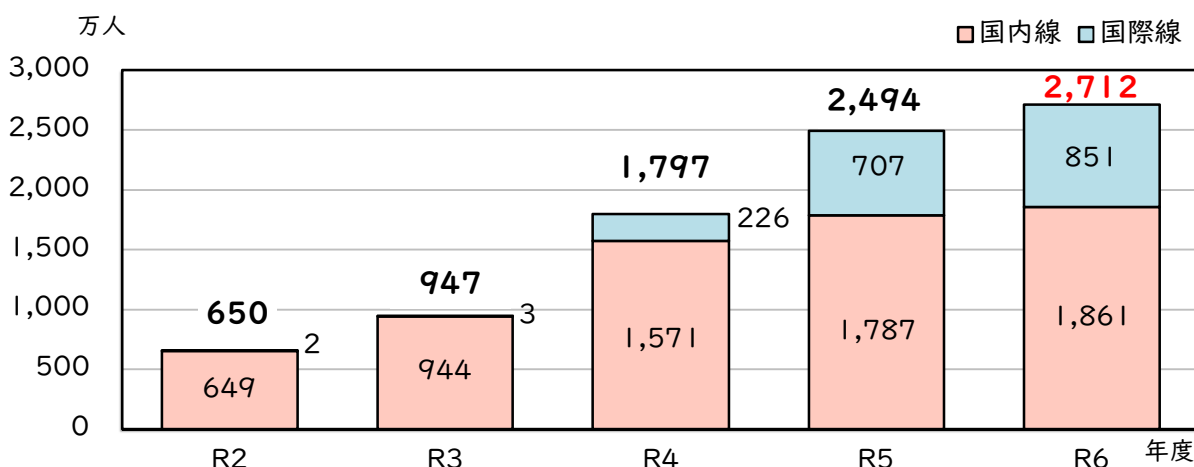
乗降客数：約 2,712 万人

国際線：約 851 万人 国内線：約 1,861 万人

（1）乗降客数の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

乗降客数は過去最高を更新した。

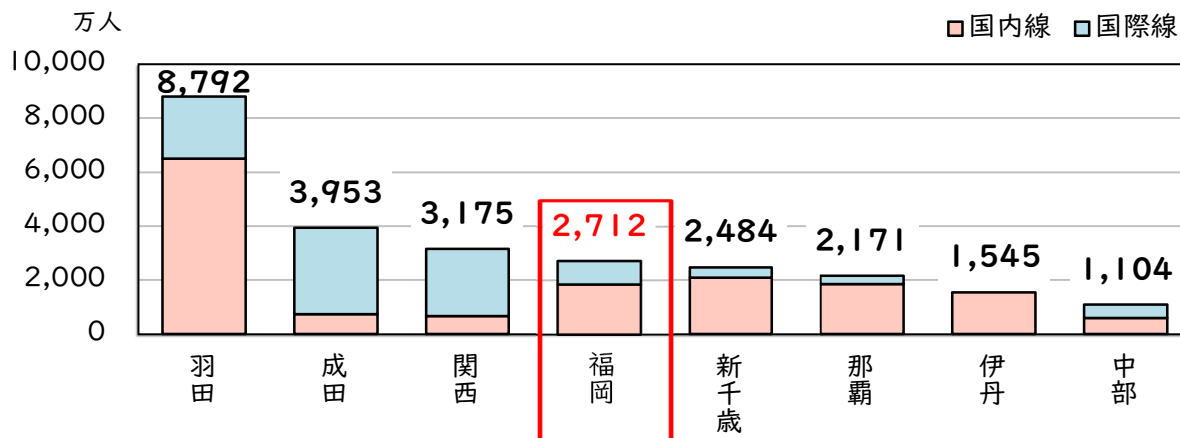
【グラフ 1-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の乗降客数は国内第4位である。

【グラフ 1-2】



2. 貨物取扱量

【令和6年度確定値】

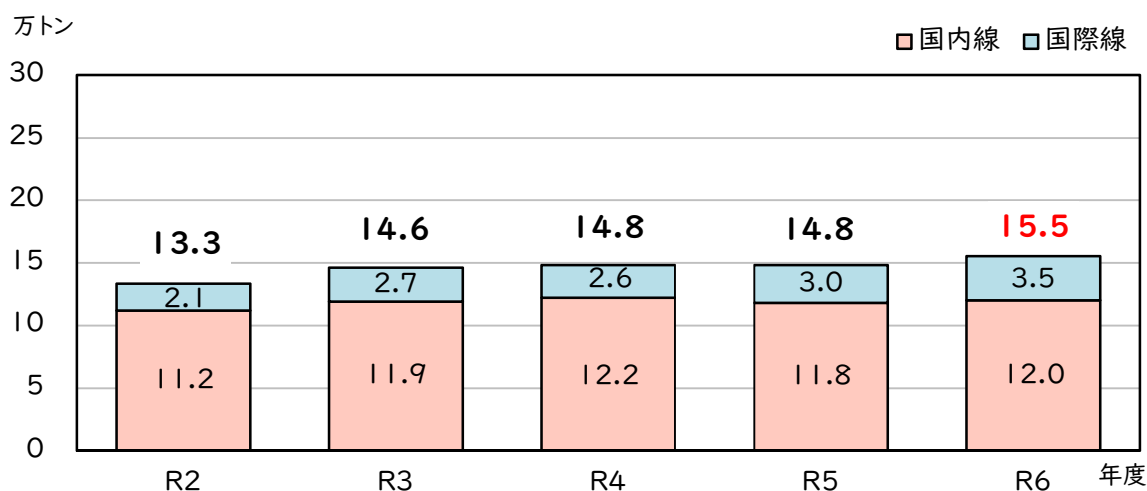
貨物取扱量：約 15万5千トン

国際線：約 3万5千トン 国内線：約 12万トン

(1) 貨物取扱量の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

国際線・国内線ともに前年度と同程度となっている。

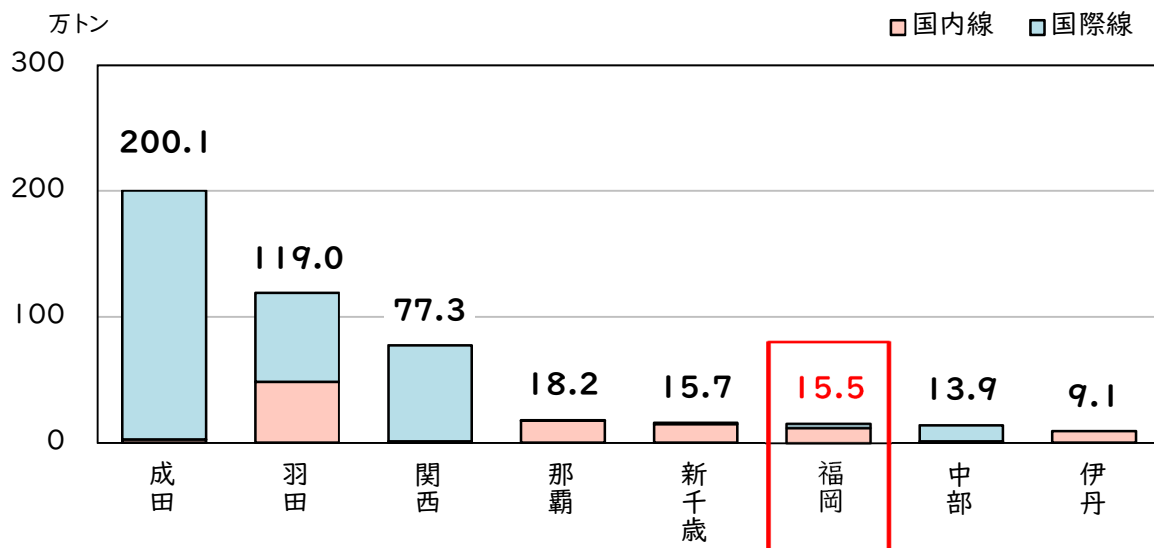
【グラフ 2-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の貨物取扱量は国内第6位である。

【グラフ 2-2】



3. 発着回数

【令和6年度確定値】

発着回数：約18万9千回

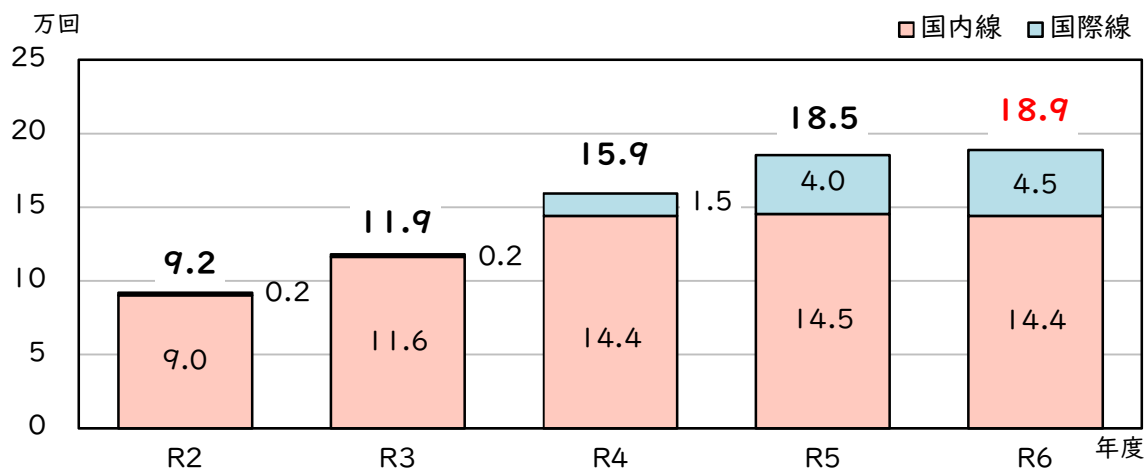
国際線：約4万5千回

国内線：約14万4千回

(1) 発着回数の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

発着回数は過去最高を更新した。

【グラフ 3-1】

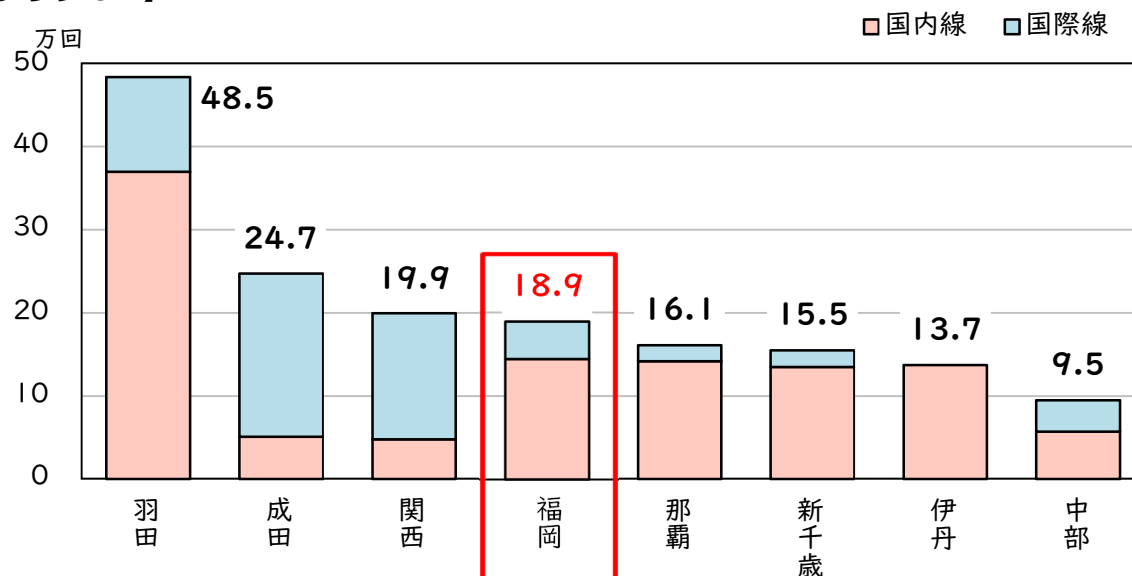


【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】

国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の発着回数は国内第4位である。

【グラフ 3-2】



4. 路線状況

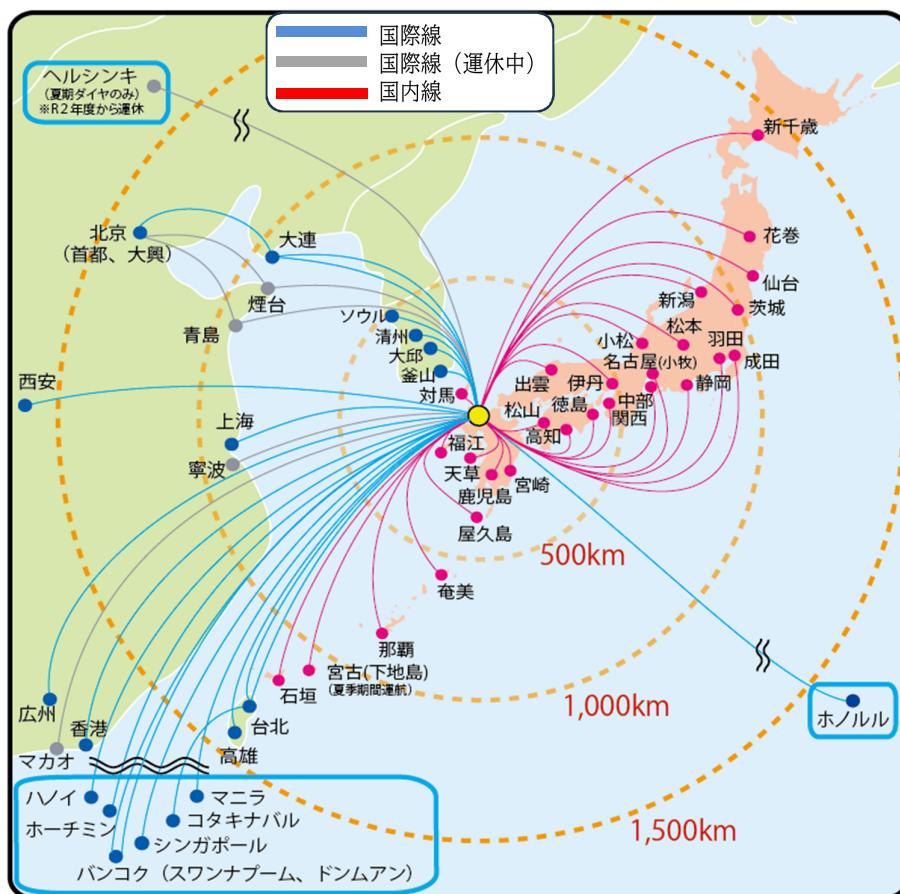
令和7年9月現在で、路線数は国際線が25路線、国内線が28路線となっている。
また、発着便数は国際線が週928便、国内線が1日386便となっている。

福岡空港の時刻表（9月）を基に福岡市港湾空港局集計

区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行 先
国際線	25 ※運休含む	928 (便/週)	32	プサン、釜山、大邱、清州、上海、北京、大連、 チンタオ、青島、煙台、寧波、広州、西安、香港、 マカオ、台北、高雄、マニラ、バンコク、 ハノイ、ホーチミン、シンガポール、コタキナバル、 ホノルル、ヘルシンキ ※下線部は時刻表上「運休」 計24都市（10カ国・地域）
国内線	28	386 (便/日)	13	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、 小松、松本、茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、 関西、伊丹、出雲、松山、徳島、高知、 対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、屋久島、 奄美、那覇、石垣、宮古(下地島) 計28空港

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く。

福岡空港路線図



福岡空港の機能強化



航空機混雑を解消するとともに、将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施(令和7年3月20日供用開始)

福岡市・福岡国際空港㈱協議会の開催実績（令和6年11月以降）

福岡市は、福岡国際空港㈱との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場（福岡市・福岡国際空港㈱協議会）を設置

開催日・出席者	主 な 協 議 内 容
令和7年1月31日（幹事会） 【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他 【福岡国際空港㈱】 副社長、経営企画本部長 他	・市から、市議会における空港関連の主な質疑について説明し意見交換を行った。 ・市から、増設滑走路の供用を契機として、市と連携して航空ネットワークの充実強化及び空港の更なる利便性の向上に取り組むとともに、安全・安心で地域に寄り添った空港運営に努めるよう申し入れた。福岡国際空港㈱からは、市の意向を踏まえ、次年度事業計画を策定する旨の発言があった。 ・市から、国際線 PSFC 改定に併せて行う市民向けキャンペーンの検討状況について説明を求め、福岡国際空港㈱からは、福岡空港の店舗や駐車場で利用できるクーポン等の配布を検討しており、詳細が決まり次第、改めて報告する旨の回答があった。 ・市から、国際線ターミナルに整備が計画されているビジネスジェット受入施設について、今後意見交換を行いたい旨を申し入れた。 また、令和7年3月に開催する「FUKUOKA FLOWER SHOW Pre-Event」の周知について協力を求めるとともに、市民とのタッチポイントにおける緑化の推進について、福岡空港での取り組みを検討するよう申し入れた。福岡国際空港㈱からは前向きに検討する旨の回答があった。 ・国際線旅客ターミナルの交通事業者乗降場等の運用にあたっては、事業者に過度な負担とならないよう、また空港利用者の利便性が損なわれないことがないよう申し入れた。福岡国際空港㈱からは、市の意見を踏まえ、適切に対応していく旨の発言があった。

開催日・出席者	主 な 協 議 内 容
令和7年6月19日（幹事会） 【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他 【福岡国際空港㈱】 副社長、経営企画部長 他	・市から、市議会における空港関連の質疑について説明した。 ・福岡国際空港㈱から、2024年度決算についての説明があり、営業利益が過去最高となったとの報告があった。また、新滑走路の供用開始後、一方の滑走路が一時閉鎖されても、他方の滑走路を使用できた事例の報告があった。保安検査や入国審査においては、特段の混雑は見られず、利用者からも好評をいただいているとの報告があった。 ・福岡国際空港㈱から、国際線 PSFC 改定に伴い実施中の福岡市民・県民向けキャンペーンについて説明があった。今後も福岡国際空港㈱と市が連携してアウトバウンド促進に取り組んでいくことを確認した。 ・福岡国際空港㈱から、国際線南コンコース延伸及びビジネスジェット専用施設の計画について報告があり、高付加価値旅行者の受入環境整備に両方で連携して取り組んでいくことを確認した。 ・市から、市民や利用者とのタッチポイントにおける緑化への協力を申し入れるとともに、安心安全な空港運営の継続と地域共生事業の推進に取り組むことを確認した。 ・福岡国際空港㈱から、羽田空港の利益供与事案を受けて、国土交通省から要請のあった自己点検の結果、福岡空港においては不適切な事例は確認されなかったとの報告があった。今後も、福岡空港に関する情報を速やかに共有することを確認した。